2023年10月15日発行　第6号
機関誌・内容解説資料

大修館英語通信

What's New!

10
October 2023
No. 6

特集

生徒の力を伸ばす「新しい評価」

座談会：観点別評価は，「先生 × 先生」「先生 × 生徒」の合意が一番！　江原美明・渡邉聡代・樋口涼太…3
成績を付けるための評価からの脱却を目指して　小野澤士龍…8
「論理・表現」の授業デザインと評価―パワーポイントを使った実践　上里晴子…10
［『英語教育』別冊記事・再録］
聞くことに関する技能総合型テストに向けて　木村智子…12
話すこと［発表］のスピーチの評価―採点の信頼性向上と指導内容の反映を目指して　菊原健吾…14

連　載

巻頭エッセイ「わたしの英活」　ニシダ（ラランド）…2
見たかもしれない風景　河西　遼…15
SLA 研究にもとづく英語学習の動機づけのすすめ　廣森友人…16
Question Box：英文法の「なぜ」？　朝尾幸次郎…17
教育ニュース ／ ホッと１コマ　あずきみみこ…18
大修館 BOOKSHELF　田頭憲二／廣森友人／中嶋洋一…19

みんな気になる他校の取り組み

上のQRコードから
［大修館書店 英語教科書特設サイト］
にアクセスできます。

TAISHUKAN

巻頭エッセイ

わたしの英活

“But man is not made for defeat,” he said. “A man can be destroyed but not defeated.” ——“The Old Man and the Sea”

ニシダ（お笑いコンビ・ラランド）

英語は昔から得意科目でした。実際に話したり聞いたりできるようになったのは，上智大学入学後。興味をもったのが英語でしか受けられない授業ばかりだったので，しっかり勉強するようになりました。大学の生協や図書館には日本語の小説の海外翻訳版などが置かれていて，川端康成の『雪國』の英語版をよく読んでいました。原書が好きだったので意味は大体わかってるから読みやすいし，そこで使われている英単語とかが頭に入ってきやすいからその勉強法をよくやっていましたね。

大学の敷地内に教会があり，土日になるとご飯やお茶菓子が提供されていたので，暇な時はそこに行って，外国人の牧師さんたちとよく会話していました。牧師さんの話す英語が最初よくわからなかったのですが，聖書由来のことわざが多いと気づき，『聖書に由来する英語慣用句の辞典』（大修館書店，2011）を買って，勉強しました。英語はツールで使った方が頭に入るんだなと思います。英語自体を勉強しようとすると結構苦痛な時があるけど，歴史の授業を受けるために使うと頭に入ったり。

英語に関する思い出で特に覚えているのが，当時，服のサイズが大きいので，ネットの通販を利用していたんですね。アメリカ全土から集めた売れ残りの服を売っているサイトで，サイズだけ指定するとランダムで送られてくるんですけど。「SAMURAI」なんて書かれた恥ずかしいものがあったり，ミッキーが描かれていると当たりだ，なんて言って着ていたりしたんですが，特に気に入っていたのが，メジャーリーグの全球団のロゴが入ったＴシャツ。それを着て大学を歩いていたら，アメリカ人の留学生に，「お前はどこのチームを応援してるんだ！」ってめちゃくちゃ怒られて。当時カープが好きだったんで，しどろもどろになりながら，「マエケンがいる，ドジャースかな」と言ったら，「お前の応援しているチームはここだな」とロゴを指さしてくれました。ちょうど左の二の腕の辺りでしたね。英語で怒られるなんて初めての体験で，しゃべらなきゃいけない雰囲気がすごくて。多分，そういう切羽詰まる場面，みたいなのが英語が話せるようになるのには必要なんだと思います。

高校生のうちって結構せまいコミュニティだから，英語が必要になる場面も少ないけど，大人になると，意外と英語が話せたらよかったと思う場面って増えていきます。すごく大きな後悔をする訳じゃないから，学ぶ決意はしにくいかもしれないけど，小さな後悔は生きてると積み重なっていくので，英語はやっておいた方がいいよ，って高校生の子たちには伝えてあげたいですね。海外の方が日本語を話されてたら好きだな，と思うし，しゃべれること自体がもうキャラクターになったりするので，完璧な言いまわしができなくても，話すということがやっぱり英語って大事なんだと思います。

※この記事は，2023 年 7 月 31 日に大修館書店本社にて行ったインタビューをもとに構成しました。

Profile

ニシダ

1994 年 7 月 24 日生まれ，山口県宇部市出身。上智大学在学中，サーヤとともにお笑いコンビ「ラランド」を結成。2019 年, M-1 グランプリでアマチュアながら準決勝に進出し，話題に。2023 年 7 月に初の小説『不器用で』（KADOKAWA）を刊行。冒頭の言葉は，好きな英語のフレーズは，とお尋ねしたところ答えてくださった，ヘミングウェイの『老人と海』の一節。英語で読んだ時に，すっきりした英語にかっこよさを感じたそう。好きなアルファベットは K。

※記事の完全版は上のQRコードからご覧いただけます。

★座談会中に出てくる樋口先生の「振り返りシート」とこの座談会の完全版はQRコードよりご覧いただけます。

特別 × 座談会

観点別評価は，「先生×先生」「先生×生徒」の合意が一番！

江原美明 × 渡邉聡代 × 樋口涼太

新学習指導要領が実施され，先生方の一番の悩みの種となっているのが，３観点×５段階評価の観点別評価ではないでしょうか。今回は文科省で新学習指導要領の評価の検討・作成に携わっていた江原美明先生に，次年度から新しい評価に取り組む渡邉聡代先生と，ラウンド制の学校で評価に取り組んでいる樋口涼太先生が，疑問や悩み事をご相談。ほっと心が軽くなる，評価の新しい捉え方についてお話しいただきました。（聞き手：編集部）

※この座談会は2023年８月にZoomを通じて行いました。

――学校での評価の状況について教えて下さい。

樋口：中高一貫校で，附属中学校から高校２年生までラウンドシステムを導入しています。評価に関しては，本校の学校経営アドバイザーの先生にもご助言いただきながら，英語科，学校全体で取り組みをしているところです。

渡邉：現在担当しているのは３年生で，旧課程の学年です。1，２年生の先生が試行錯誤しているのを一緒に見たり考えたりしていて，来年４月からは自分がやらなければいけないので，どうしようかと考えているところです。

Q：評価をするためにテストをしたり，本来は生徒に英語の力をつけさせることが目的なのに，知識・技能の点が足りていないからテストで点数を補うか，など評価を基準に考えてしまうことがあります。評価で一番大切なポイントとは何でしょうか。

A：生徒も先生も結果が楽しみになるような評価，良いところと勉強不足のところがわかる評価，授業で教えたことを評価する評価です。

江原：目的があってそれに基づいて教えて結果をテストする。教えたことがきちんとできているかがやはり重要ではないでしょうか。

樋口：こちらが授業で教えたことが本当にできているかどうか，結果になってわかるのは生徒先生両方にとって良い気がしますね。

江原：そうですね。テストは半分くらいは授業でやったことを出題し，皆が60点以上をとれるようなものが

良いと思います。初見英文を出すべきだとよく言われますし，その通りなのですが，出題の仕方次第で，いくらでも単なる暗記問題にならないように工夫することができます。授業でやったことを出すことは，全然悪いことではありません。

Q：３観点に分けてABCに落とし込んで評点も出して評定も出すとなると作業量が増えた感じがあり，負担感もあります。あてはまる観点が曖昧なまま評定をつけていくモヤモヤ感も悩みです。

A：知識・技能，思考・判断・表現（以下「思判表」），主体的に学習に取り組む態度は，もともと英語によるコミュニケーション能力という一つのものを，便宜的に切っているだけ。だから区分けを生徒と先生が共通理解していれば良いんです。

江原：思判表か知識・技能か迷うこともあると思うのですが，一番は先生と生徒の中で合意しているということですよね。今まで知識・技能が中心で思判表を見られるテストがなかった。ある意味思判表が脚光を浴びたということで，私たち教員が，これはどれにあてはまるんだろう，どういうことなんだろう，と考えることも非常に大事なことです。

例えば，単語や文法，文構造を学んで，それを含む英文を読んで理解できるというのは知識・技能ですが，読んだ結果自分がどういう風に思うかを，目的・場面・状況がある中で発表すれば思判表になります。例えば，「○○について発表しよう」という課題を，教科書にそのトピックがあるからやるのではなくて，「クラスメートがよく理解できるように」とか「自分の主張を説明して相手を納得させるために」とか，どういう時に何のためにそのお題の話をするのか考えさせるような枕詞を常に付けると良いですよね。そこが思判表の神髄だと思うので。

渡邉：テストを作ると知識・技能の問題ばかりになってしまい，最後に思判表を少し入れるという形になってしまっていたのですが，授業に日頃から入れていく必要がありますね。

江原：僕が授業をして一番うまくいったのは，４月に１枚のシートを生徒に渡す方法です。左側に授業の内容を書くんですよ。例えばイントロダクション，ペアワーク，ディクテーションとかを。それで，ここからは本文理解とか，授業の流れを示すわけです。その右側に，左と対応させる形で，定期試験はこんな問題を出すという予告を載せておきます。そうすると，授業の最初の何分を頑張ると，テストの大問○は解ける，という風になる。

この対応をさせることで，生徒は授業のどこを頑張ると定期テストにつながるのか，パフォーマンステストがある時期には言語活動を頑張ろうとか，つながりをもって勉強できるんですね。生徒の今の努力と将来の結果のつながりを付けてあげるんです。生徒は授業に来ても，部活のことや友達のこと，他に関心がたくさんあります。我々教師が授業と結果の結びつきをわかりやすく目の前に見せる必要があるんですよね。

渡邉：年度当初の計画が大切ですね。

江原：ギリギリに考えるとしんどいので，次の年の計画を冬休みとかにやってしまうと良いですね。モヤモヤを自分でしっくりくるようにしておけば良いですし，それを仲間の先生と合意がとれた状態にしておくのも大切ですね。テストは全クラス共通ですか。作る分担などはどうなっていますか。

樋口：各学期で担当の先生を決めて持ち回りで行っています。

江原：うまく機能しているということはテストの明細表（テストスペック：大問の割り当て）がある程度決まっているんでしょうか。

Profile

江原美明（えはら よしあき）
武蔵野大学教育学部教育学科特任教授

国立教育政策研究所，評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者。研究分野は外国語としての英語学習方略，英語教員研修など。NHKテレビ講座「リトル・チャロ」シリーズでは講師を務めた。高校英語検定教科書 *PANORAMA English Communication* シリーズの編集代表。

樋口：大問１・２・３が帯活動を含む知識・技能，４・５・６が教科書でやった問題で行う思判表，７・８が初見問題，という感じで毎回固定です。

渡邉：テスト作成は持ち回りなので，作成者によって多少色が変わってしまいます。皆で協力して確認をすることになっていますが，間に合わず，前日にスペルチェックだけして，とバタバタでテストに突入してしまうこともあります。

江原：現実的にはそれがよくある状況ではないかなと思います。生徒指導が忙しい学校などでは，テスト作成の時間を十分にとれないこともあります。作成者の先生の担当する生徒が有利になってしまうなど，不平等になることもありますね。

大問の構成を決めておくのは，ひとつの解決策じゃないかと思います。作る人が変わっても中身が違うだけで枠は同じになるから，ずれにくい。テストスペックを決めておくことです。それに後は観点別の区分けですよね。こういう理由で分けた，と決める。決めたら後悔しない。私たち全員が，いろいろと研究しながら学んでいく中で，違うとなったらその都度決断して修正していけば良いんです。最初からきっちりはいかないと思います。どちらにせよ，知識・技能，思判表，主体的に学習に取り組む態度は，一つのものなんですから。もともと英語によるコミュニケーション能力という一つのものを，便宜的に切っているだけですから。だから区分けを生徒と先生が理解していれば良いと思います。

渡邉：分ける方にばかり目が行って，切らなきゃ切らなきゃと思ってしまっていました。

江原：先生たちもね，指導主事の先生とかがくると，自分達がした区分けについて不安になってしまうと思うんですけど，ご自身できちんと説明ができればいいと思うんです。

そして思判表はなんで「○○のために」ってこだわるかというと，学習指導要領の知識・技能の箇所を見ると，音声，語彙，表現，文法と書いてあって，その後にもうひとつ，言葉の働き，つまり機能ってあるんですよ。これわりと忘れちゃうんですよね。機能。こんな時に使えますよっていう。文構造を教えた後で，どんな時に使うかというのは意外と弱いところだと思うんです。そこを教えると、思判表の能力につながります。だから，樋口先生の振り返りシート（*QR コード）を見ていいなと思うのが「自分のこれからの実生活を想像し」という箇所です。

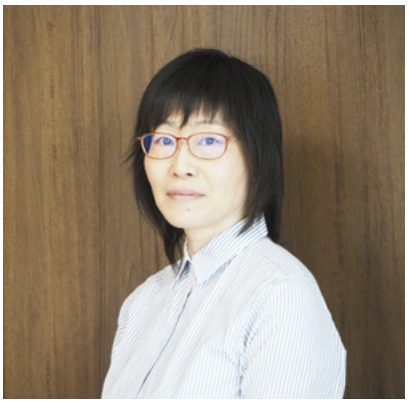
渡邉：私もこれ良いと思いました！

江原：自分で考えさせるっていうね。学んだのなら，これ何に使うのっていう。一瞬先生が教えちゃってもいいところかとも思ったんですけど，生徒に考えさせるっていいですよね。勉強したんだったら使おうよ，というメッセージになる。

Q:「主体的に学習に取り組む態度」の評価について，振り返りシートやパフォーマンス課題，授業中の様子等から行うつもりでしたが，実際は提出物の提出率や単語テストの出来不出来を点数化する先生もいらっしゃるようです。

A：あくまで振り返りシートに書いている言葉が実際の言語活動やパフォーマンスに現れたところで評価しましょう。

江原：宿題やノート，課題の提出は主体的に生徒が取り組んでいるわけですから先生との間に合意ができていれば「主体～」として評価しても良いと私は思います。ただ，振り返りシートは噂によると塾で書き方指導があるとも聞きますから（笑），それだけで判断するのは避けたいですね。あくまで，その振り返りシー



Profile

渡邉聡代（わたなべ あきよ）
栃木県立今市高等学校教諭

CLIL 実践中。『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』（大修館書店）共著ほか。

樋口涼太（ひぐち りょうた）
横浜市立南高等学校教諭

「英語を自分のツールとして使えるように」と４技能を満遍なく伸ばせる授業を心がけている。

トで書いている内容が実際の言語活動なりパフォーマンスで出てきたところで判断することです。振り返りの言葉だけで判断しないということ。難しいですが，ここは押さえたいところです。

渡邉：腑に落ちました。ある程度事前に決めておかないと，先生によっては単語テストの出来だけで判断してしまうなど、ズレが生じる可能性もあるので話し合いが必要ですね。

江原：後は上達がわかるような評価規準にするのが良いですね。BとAの違いが生徒にわかるような。あとはここをやったらAだよ，とちょっと付け加えてあげると生徒も頑張れますよね。単なるやる気，とかにするとえこひいきと思ってしまう生徒もいますから，「これをしていると頑張ってるという評価になるよ」と伝えてあげることです。だから，「主体～」もAとBのやる気がどう違うかを定義しても良いと思います。

樋口：ALTともそういうところを話しながらやっています。キーワードを強調してだとか，話すスピードとかですね。TEDのスピーチ等でお手本を見せてこう話せたらAだよ，というような。パフォーマンステストはこのように評価すると生徒に伝えています。

江原：それは大事ですよね。パフォーマンステスト前にある程度生徒が自信をもって臨める状態までもっていく。表現活動による指導と評価の一体化というのはそこですよね。指導をしたうえで，評価をする。インタビューテストをすると言いながら指導はしていないとか，よくありますよね。内容について例を入れるかとか，そういうことも言っておいてくれないと，生徒もわからない。だから今樋口先生がおっしゃったようなことは実践されてくるからわかることですよね。生徒は教えると結構できるようになりますよね。教えてできるようになって，それを評価してあげるというのが大事です。

Q：日頃の小テストの点数と定期試験の点数は同じ重みにすべきでしょうか，傾斜をかけるべきでしょうか。

A：重みづけというよりどこで測るか区分けしましょう。

江原：小テストは単純で暗記でできるなら知識・技能として，定期テストでは思判表を見るとか，重みづけというよりも，どこで何を測るかを決めるということだと思います。先生が自信をもって決めていい。また，高校1～3年生で知識・技能はばらつきが結構あるはずなので，1年生の時はそこをきちんとするために知識・技能を重みづけして評価しておくとか，生徒たちの弱点に応じたバランスをつければ良いと思いますね。

Q：「理解している（理解した）ことを目的・場面・状況に応じてどう使うことができるか」が思判表のカギという認識で正しいでしょうか。

A：理解したことを使えるようになって（＝技能），それを活用するのが思判表ですが，思判表を伴うタスクを行いながら，知識・技能が深まるということもあります。

樋口：やはり3観点と聞くと独立して捉えてしまいますが，相互に影響しあうものなのですね。英語全体として捉えていくことが大事ですね。

江原：ポイントは，思判表の場合はその単元で学んだ言語知識だけではなく，自分の持っている能力をうまく活用して課題解決することになるということですね。使う表現にリミットはありません。生徒はクリエイティブだし。だから，思判表の評価の中に文構造，みたいなのはあまり入れられませんよね。

Q：思判表の観点で見る時，英語使用の誤りは許容して良いでしょうか。

A：テストは減点せず，共通する誤りをリストにして渡しましょう。

江原：先生によって意見が分かれてしまうところだと思います。文法で減点してしまったり。内容論理構成で見るのが思判表ですから，もしそうしたところで減点したいのであれば，知識・技能のルーブリックの観点も入れなくてはいけませんよね。

私は高校で教えていた時，定期テストの解答用紙は，表側が知識・技能とリーディング，裏は全部ライティングの問題を作りました。点数は10，7，5と3段階だけにして，文法は見ないけれど，書いている英文の意味をこちらが理解できるかどうかで判断しました。文法や文構造，いちいち見ていたらキリがないですから，ある程度量が書いてあって意味がわかればよしとする位のおおざっぱさでも良いと思いますね。

樋口：文法ミスを容認していくと，生徒に正しい知識が身につかないのでは，という悩みもあります。

江原：ギアを変えること，“shifting gears”が大切です。テストで思判表を問うためにライティングを出題する時は，生徒はどんな言語材料を使ってきても良い，減点もしない，という意志を持ってやる。ただ，先生の方で生徒たちに共通する誤りを

見つけておいて，テスト返しやその後のタイミングで，リストにして生徒に渡すと良いです。

また，普段のライティングの授業内のタスクでやるのも良いですね。短めのタスクにして書かせてペアチェックさせて最後に先生に提出，という風にして，文法項目の中でどうしても押さえたいところがあればそれは授業の中で正確になるよう指導していくのが良いと思いますね。

Q：評価を公平にするために複数の採点者でパフォーマンステストの採点をしたいのですが忙しくて厳しいのが現状です。また，採点者間，採点者内のズレも気になります。

A：とにかくルーブリックを単純明快なものにしましょう。

江原：評価は様々な研究があり，完璧にやろうとすると現場では難しいこともあります。理想の形を追うよりも，とにかく現場でできる形にするのが良いでしょう。採点者間信頼性と採点者内信頼性というのがありますね，採点者間というのは人によって甘くなったり辛くなったりと基準がブレること，採点者内というのは同じ人の中でも “fatigue effect” 等で，午前中と午後で判断基準が変わってしまうことです。だから，ぼーっとしてても眠くても，ある程度きちんとできるような単純なルーブリックにするのが一番です。いくらルーブリックが正確に切り分けられていたとしても，やる側がそれに沿うのが難しければ信頼性や妥当性はないわけですよね。だからとにかく簡単にするのが良いですね。

Q：CBB や CAA など，知識・技能がついてこない生徒はどうしたら良いでしょう。

A：知識・技能の定義の仕方ですね。範囲を限定し，ABC の基準を操作しましょう。

江原：知識・技能が C になるというのはパフォーマンステストですか，ペーパーテストですか。

樋口：総合的にです。英語は話せているし，リテリングもできているけれど，いざ知識・技能を見ようと文法をつっこんだりすると，アレレとなってしまう……（笑）。

江原：一つは，パフォーマンステストで知識・技能をとってしまうと，よほど範囲を限定していない限り，本当に習得しているかどうかを測ることになるからかなり難しいです。一定期間で学んだことができたかどうかで点数をあげた方が良い。

もう一つは，知識・技能の ABC の基準の操作ですね。完璧にできないと AB じゃないのか，どうして C なのか，改めて定義づけする必要があります。

また，ある意味で CBB とかって，文科省からすると逆に良いと思われるかもしれませんね。今までとは逆のベクトルできちんとコミュニケーション重視で教えているっていうことですからね。ただ，テストや大学入試で今まで OK，OK って言っていた人たちが急に細かいところで減点しだすわけだから生徒も困っちゃいますよね（笑）。

方法としては，本人になぜできないかをまず聞くこと，理由を突き止めること。それから小テストの難易度を下げること。生徒の頭で実際に起きる思考プロセスを再現する形で問題として尋ねるのがベストです。いかにもテスト問題的な言語操作の必要な問題ではなくて，実際にその言葉を発する時の思考プロセスを再現させる問題を作ることです。聞きたいことを聞き出す時に不必要な認知負荷を与えないのは大切です。聞きたいところ以外でつまずくようなテストだと，テスト自体の信頼性が薄れますよね。その子は本当はわかっているのに，聞き方が変で答えられなかったっていうのはね。

＊

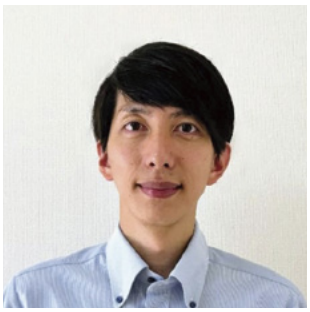
渡邉：評価って，結局モヤモヤして曖昧だと前に進まないから，決めるということがまず大事なんですね。

江原：そうですね。後は自信を持つことです。人生の生き方にしても，正解って一つじゃないじゃないですか。だから評価にしても先生が一度決めて，次の年以降また微調整するかもしれないけれど，その年の生徒たちと合意すれば良いんですよね。合意のない中で，今日はこうで明日はこう，だとまずいじゃないですか。だから，生徒の合意があれば常に改善しながらやっていけば良いと思います。

樋口：うちの学校はラウンドシステムがあってそれに基づいて評価のことやテストのことを決めているので，結構共通見解がとれているのは大きいかなと思いました。実際，先生方のやり方や考え方がそれぞれの場合に統一するのはすごく難しいだろうなあと勉強になりました。

江原：やっぱり先生方の教えることのフォーカスが決まっていれば，当然評価のフォーカスも決まるわけですよね。皆が教えることのフォーカスが決まっていれば，何をどの観点に当てはめるかも決めやすくて評価のフォーカスも入れやすい。先生間，生徒間での共通認識，合意が，評価には大切なのだと思います。

成績を付けるための評価からの脱却を目指して



小野澤士龍（おのざわ　しりゅう）
神奈川県立光陵高等学校教諭

教師も生徒も「評価」と聞くと，順位や序列を付けるための成績をイメージしがちであるが，中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」にも示されている通り，評価が生徒の学習改善や教師の指導改善につながるのが理想である。高等学校で新学習指導要領がスタートした昨年度に，評価のあるべき姿を目指して行った取り組みを共有したい。

1．本校独自のピクトグラムの活用

勤務校である光陵高校は評価の研究を長年行っており，ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を以前より行っていた。点数ではなく S, A, B, C などの記号を用いて評価を行う際に課題となるのが，生徒たちが S 以外の評価を悪いものと捉えてしまい，教師も徐々に一番上以外の評価を付けづらくなることで，結果的に S が多くなってしまうことである。よい評価をもらえて生徒は喜ぶかもしれないが，多くの生徒に最高評価を与えるということは，目標とする到達度を引き下げてしまっていることになり，長期的に見れば生徒にとってマイナスである。本校では，ルーブリックを用いた評価をする際に，各到達段階のイメージをピクトグラム（下図）で示し，一番上の☆は目標をはるかに上回っている場合のみという共通認識を持つことで，目標を高く保ち続けるようにしている。

評価	イメージ
☆	目標をはるかに超えている 質的な深まり・高まりがみられる
◎	評価規準にしっかりと到達している 全員に到達してほしいレベル
○	全然悪くないけど評価規準まであと一歩
△	努力を要する
※	資料不足等（不参加・未受験など）

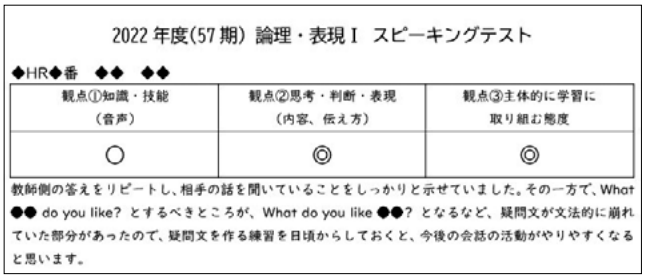
2．事前の準備

今回の学習指導要領改訂により，英語科では 4 技能 5 領域別にそれぞれ 3 観点での観点別評価を行うことになった。年間でのパフォーマンステストの回数も自然と増えることになったが，事前の計画が十分でないと，テストを実施しそこねたり，適切なステップアップが図れないということが起きかねない。

こうしたことを防ぐため，まず重要になるのが，領域ごとの目標を明確にしておくことだろう。例えば本校では，１年時の「読むこと」について，「WPM100程度の速度で読み，概要や要点を目的に応じて捉えられる（詳細は分からない部分があるが，おおよその内容や，書き手が伝えようとする main idea などの重要なポイントは理解できる）」等の目標を設定した。「話すこと［やり取り］」についても，１年時は「相手に質問できる」「相づちを打てる」「相手の発言に対して，２文以上で返答し，やり取りを継続できる」など，３年間の土台となるような目標を立て，そこからのステップアップのイメージとして，２年時には「即興的なやり取りの中で論理的に意見を述べられる」「相手の意見や相手からの質問を踏まえて，会話の流れに沿った発言ができる」など，そして３年時には「資料を活用しながら主張できる」「他者と協力して課題が解決できる」などの，より発展的な目標を立てた。

このように目標が明確になると，授業づくりやテストづくりもしやすくなる。例えば，リーディングにおいて，「詳細」の理解は１年時の目標に含まれていないため，自然と概要や要点の理解を目指した授業づくりとなった。あるいは，目標の中に「WPM100程度」という数値を含めたことで，リーディングテストの作問時に分量の目安が分かりやすくなる。「話すこと」などのテストの際にも，各学年の到達目標がはっきりすることで，「今回の」テストで生徒にどこまで求めるべきかが判断しやすくなる。

次に重要なのが，目標を踏まえた指導・評価計画の作成である。教科書の各 Unit のトピックや，Unit の最後に用意されたタスクの内容などを踏まえて，各領域の能力がバランスよく育成できるような計画が望ましい。計画づくりのために行ったことは単純で，年度が始まる前に「英語コミュニケーション」と「論理・表現」の２科目の教科書を読み込み，内容を整理した上で，どちらの科目で・どの時期に・どの領域



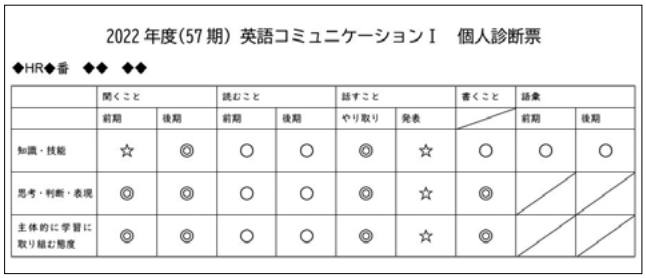
2022 年度(57 期) 論理・表現Ⅰ スピーキングテスト

◆HR◆番　◆◆　◆◆

観点①知識・技能（音声）	観点②思考・判断・表現（内容、伝え方）	観点③主体的に学習に取り組む態度
○	◎	◎

教師側の答えをリピートし、相手の話を聞いていることをしっかりと示せていました。その一方で、What ●● do you like? とするべきところが、What do you like ●●? となるなど、疑問文が文法的に崩れていた部分があったので、疑問文を作る練習を日頃からしておくと、今後の会話の活動がやりやすくなると思います。

パフォーマンステスト後のフィードバック例



2022 年度(57 期) 英語コミュニケーションⅠ　個人診断票

◆HR◆番　◆◆　◆◆

	聞くこと		読むこと		話すこと		書くこと	総合	
	前期	後期	前期	後期	やり取り	発表		前期	後期
知識・技能	☆	◎	○	○	◎	☆	○	○	○
思考・判断・表現	◎	◎	○	○	◎	☆	◎		
主体的に学習に取り組む態度	◎	◎	○	○	◎	☆	◎		

個人診断票

を重点的に扱うかを担当者間で議論した。

指導・評価計画の作成とともに行ったのが，定期テストの形式の見直しだ。リスニングとリーディングについては，聞く力と読む力がしっかりと測れるよう，すべて初見の英文を用いて，おおよそ50点ずつ出題することにした。「論理・表現」の定期テストでは，文法テストとライティングテストを実施したが，文法問題を解くスピードによって，ライティングの解答時間にばらつきが出てしまわぬよう，他教科と同じ50分の中で，文法25分＋回収・配付５分＋ライティング20分と時間を区切って行うことにした。ちなみに，領域別の評価に馴染まない文法テストの結果については，「知識・技能」のうち「知識」の部分の評価資料として扱った。

３．パフォーマンステストについて

「話すこと」や「書くこと」のテストはこれまでも行ってきたことではあるが，評価の際に多少の主観が入らざるをえないという点を心配されている先生も多いのではないだろうか。この点について，まずは芸術や体育等，他教科についても同じことが言えるため，英語教育の専門家として，我々が自信を持って評価していくしかないという側面があるかもしれない。その上で，本校では，年間を通じてテストの回数を確保することで，１回の評価の重みを軽減したり，担当者間での評価基準の摺り合わせを丁寧に行うなどして，教師側の心の負担を減らすように心掛けた。

パフォーマンステストを行う際に注意したいのが，指導は領域統合的に行うことも多い昨今だが，評価は領域別に行うということである。これは例えば，英文を読んで，それに対する自分の考えを書く問題を出題してしまうと，仮に結果が振るわなかった場合に，「読むこと」と「書くこと」のどちらの力が不足しているのかが適切に評価できないためである。

また，今回の学習指導要領改訂により，「話すこと」や「書くこと」については，言語使用の正確さ（文法面）を「知識・技能」の観点で，目的，場面，状況に応じた表現内容の適切さ（内容面）を「思考・判断・表現」の観点で，それぞれ評価することとなった。これはつまり，活動の際に教師側が目的，場面，状況を明確に設定することが不可欠ということだ。昨年度実際に行ったライティングテストを例に取ると，「ホストファミリーとして受け入れる予定の留学生から，自分の家（あるいは日本の家庭）のルールについて尋ねるメールが届いたので返信する」という状況を設定した。自分の家のルールを説明するという部分が同じでも，読み手が同じ地域に住む日本人なのか，それとも日本の文化やマナーに詳しくない外国人なのかによって自ずと内容は変わってくる。状況に合わせた内容の適切さを評価する以上，普段の授業時から，教師が状況を明確に示し，聞き手や読み手に応じたアウトプットについて生徒と一緒に考えることを習慣的・継続的に行うことが重要である。

４．テストは実施後を大切に

最後に，テストを単なる成績付けのための資料で終わらせず，生徒の学習改善につなげるための取り組みを紹介したい（上の２つの図を参照）。

一つ目は，パフォーマンステスト後のフィードバックである。特に，話すことについては，個別のフィードバックがないと改善しづらいと考えたため，テスト中にメモしたアドバイスを，差し込み印刷の機能を使って評価と一緒に印刷し，一人ひとりに個別のフィードバックを行った。仮に一番上の評価であっても何も改善すべきところがないということは考えづらいので，生徒全員にフィードバックを与えられるのが理想だが，昨年度は，少なくとも目標である◎に届かなかった生徒には必ず改善のためのアドバイスをするようにした。

二つ目は，年２回の個人診断票の配付である。定期テストやパフォーマンステスト等の結果をもとに，領域別・観点別に到達度を記号で示し，領域ごとの得意と苦手を可視化することで，学習改善に役立ててもらうことをねらいとした。

評価が単なる順位付けのための道具で終わらず，生徒を励まし，次なる学習への道しるべとなるよう，これからもよりよい評価の形を模索していきたい。

「論理・表現」の授業デザインと評価 ―パワーポイントを使った実践

上里晴子（うえさと　はるこ）
東京都立調布南高等学校教諭

1 「論理・表現Ⅰ」の授業

新しい学習指導要領の「論理・表現」の教科書は，「アウトプット：スピーキング（発表）・スピーキング（やりとり）・ライティング」にフォーカスされている。つまり，日本人の英語教員が授業をするのに，一番苦手意識を持っているこの２つのスキルの指導をしなければならない。このため，教科書だけの問題ではなく，授業展開に悩んでいる教員が多いのではないだろうか？

現任校ではパワーポイント（以下，パワポ）のスライド作成という活動を通して授業展開をし，評価にまでつなげるという実践を行った。新しい学習指導要領に基づく授業構築および改善の一例としてこの実践を共有させていただき，今後のさらなる悩み解決の糸口になれば幸いである。

昨年使用した教科書は *Genius English Logic and Expression* Ⅰである。Unit 8を例にパワポ作成の授業実践を紹介したい。

この教科書では，各ユニットの最後に Try It Out という活動のページが設けられている。Unit 8は「人に紹介したいお気に入りの場所について書く」ことが目標である。教科書では次の４ステップを踏んでいる。

①トピックを選ぶ⇒②自分の考えを表にまとめる⇒③ペアでおすすめの場所を紹介し合う⇒④６文以上の英文にまとめる

「国内で自分のお気に入りの場所を旅行者に紹介する（投稿する）」という設定のため，自然と PC を使い検索する必要が出てくる。様々な情報をキャッチすれば，当然仲間と情報共有がしたくなる，という流れが自然に出てくる。５～６人のグループワークにすると，各々 PC を使い，検索したり，話し合う風景が教室内に出来上がる。教科書を通して学んだことが「立体」になる瞬間である。

この時点で教師は，自然と生徒たちのファシリテーターへと役割がシフトする。この一連の流れが教室内に出来上がると，生徒のアウトプットは上手くはかどり，授業展開もインプットからアウトプットまで一連の流れがうまくいく。現実的に限られた時間の中での授業となるため，現任校では Try It Out の課題を先に夏休みの課題として与え，生徒はパワポを作成し Teams のクラスボックスに提出した。授業では，一人ひとり発表の時間をとったが，想像以上に生徒はデジタルネイティブで全員のスライドはすべてオリジナル！作成することがクリエイティブな活動となるため，楽しい課題となっていた生徒も多かったようである。

【思考力・判断力・表現力を測る素材：パワポの作成】

生徒の創造力を測るシンプルな素材としてパワポがある。プレゼンテーションをするにあたり，視覚的ツールとして，マストアイテムであるばかりか，作成には「思考力・判断力・表現力」が要求される。

ひとかたまりの英文を書く練習として，また，英文の構造を理解する目的で私はこのパワポのスライド作成を教材として活用している。また，「論理・表現」においてはプレゼンテーションは必須であるため，双方の目的を達成するために，有効活用している。方法は以下のようになる。生徒が「書く」ことに自信がなくても，問題なく取り入れるこができるのも魅力である。基本形は５枚のスライドを作る。

【Procedure】

（１）１枚目　主題（Subject）を書く
（２）２枚目～４枚目　内容を支持文（Supportive sentence）を加えて書く（例）「旅」がテーマであれば，より具体的な情報：地図やその場所を選んだ理由等を書く
（３）５枚目　結論（Conclusion）
（４）各スライドには必ず写真や地図などの情報を入れ，視覚的に分かりやすいものにすること。
（５）各スライドにはスピーチ原稿は書かない。あくまでも英文の量は５～７文程度までに収める。

１年時，初めて PC を使って発表をする際，この基本形を提示すると，「書く力」が弱い生徒でも喜んでスライドを作成し，満足感も得ることができる。また，発表時に視覚的な要素が強いため，英語が苦手な生徒でも劣等感を感じること

図１

図２

なく，発表することができるのもメリットである。いわゆる定番の英文のフォーマットを学ぶ上でも，有効である。プレゼンテーションに慣れていないと，発表時のスライドに書かれる文章量は多くなりがちであるが，この基本形を使うと英文の量に一定の制限を加えることになるため，生徒自身が「思考力」を使って，提示したい内容のボリュームをそぎ落とすプロセスを経験することになり，最終的には，発表の内容の要約をする力をつけることができる。まさに，生徒の「思考力・判断力・表現力」を測る上で，十分な素材となりうる。なおかつ，教員の授業準備等の負担感もなく，すぐに授業内で導入できるのでお勧めである。

２　「思考・判断・表現」の評価

教員として大切なのは，ここからの「評価」になる。１学年240名分の評価を複数の教員で行うと，判断にばらつきが出る可能性があるため，現任校では ALT １名による採点にした。ただし，評価の観点に関しては日本人教諭が簡素な観点別ルーブリックを作成し，これに準じて評価を実施した。また，生徒のモチベーションを上げるために，評価の基準については，新学期最初の授業で生徒に知らせた。「話す」（発表）の評価に関しては，新学習指導要領にあるように，パフォーマンス試験としてルーブリックで採点をした。評価は以下のように実施した。

（１）事前に提出された生徒のパワポを評価する
　⇒　カナダ人 ALT による採点
（２）パワポを使った生徒の発表を評価する
　⇒　３名の日本人担当教諭による授業内での採点
（３）スピーチ原稿は発表の「内容」として評価する

【生徒のパワポ提出から発表までの流れ】

（１）生徒のパワポの英文・表現の間違いをあくまでも「Fluency」の観点から ALT もしくは JTE がコメントを入れて返却する。（図１）⇒　プロダクト作品として評価する。
（２）生徒は自分のスライドにチェックが入った部分を直し，発表原稿の準備をする。（図２）
（３）スピーチの準備をする。発表原稿に関しては，発表が終わった後提出させる。

⇒　教員側としては，発表原稿を発表の「内容」に関する評価の材料として捉え，詳細な Writing check は控える。

【パワポの評価の観点　以下５観点】

A（十分達成できている）B（概ね達成できている）
C（努力を要する）で評価した。

①　Vocabulary /　Grammar
　語彙・文法など適切に使われているか
②　Content
　地図があり，土地柄の説明や訪れるのにお勧めの時期が書かれているか，生徒のお勧めメッセージが書かれているか
③　Structure
　５枚のスライドが主題から結論まで全体を通して首尾一貫しているか
④　Design
　デザインに工夫がみられ，観光地の分かりやすい資料となっているか
⑤　Amount
　各５枚のスライドに写真や適切な５～８文程度の説明文が書かれているか

３　まとめ

Z 世代の生徒たちは，デジタルネイティブである。嬉々としてパワポ作成に取り組み，堂々と発表する様子をみると，私たち教員も新しい時代の授業スタイルを体感できる。また，アウトプットが楽しい活動になると，生徒たちは自然と学習にモチベーションを持ち，楽しめるという好循環が生まれた。

まさに新学習指導要領の目指すところの，生徒主体の授業である。今後もトライ＆エラーを繰り返しながら少しずつでも授業および評価の改善ができればという希望をもちながら，新学期の授業を準備しているところである。

■引用・参考文献

田邊祐司 (2022) *Genius English Logic and Expression* Ⅰ大修館書店.
文部科学省 (2018)『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編　英語編』.
御手洗明佳・赤塚祐哉・井上志音 (2023)『国際バカロレア教育に学ぶ授業改善』北大路書房 .

【『英語教育』別冊記事・再録コーナー】

聞くことに関する技能統合型テストに向けて

木村智子（きむら　ともこ）
青森県立弘前南高等学校教諭

学習指導要領の「聞くこと」の言語活動には，聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動が含まれています。私は，技能統合型テストを「ある程度長い英語インプット（リスニング，リーディング）の理解・処理を伴うスピーキング・ライティングテスト」（小泉他，2017）と考え，今年度の１年生に対し，技能統合型テストへ段階的に移行することを計画しました。

最初の段階として，従来の「知識・技能」のリスニング問題（問１）に，聞き取った情報をもとに自分の考えを書く問題（問２）を１題加えました。その際，生徒がイメージしやすい身近な場面を設定するよう心がけました。一例として，実際の図書室のオリエンテーションの直後に，架空の図書室の説明を題材にしたテストを実施しました。

録音の際は，生徒を目の前にして説明する速度をイメージし，読み上げは実際と同様に１度だけ行いました。解答環境の整備として，問２の解答に必要な部分がスクリプトの後半30語程度で済むように構成し，放送前に問題文を読む時間を30秒，放送後に解答する時間を90秒設定しました。

［Script］（119 words，１分あたり約80語）

Hello, first-year students. Welcome to our school library. Now, you have two sheets, A and B. First, look at Sheet A. It shows how to use this library. It opens from 7:30 am to 6:40 pm on weekdays. When you want to borrow books, come to the desk behind the computer area. You can borrow four books at a time. Remember to return them within ten days.

Our library offers special events after school every Tuesday. We have a small talk about various things with students.

Now, look at Sheet B. We will start a new library event about foreign countries. Please tell us what country you like. We also want to know why you like the country. Thank you.

［問１］ Complete Sheet A.　（３点）

［Sheet A］

Welcome to our School Library!
［Open Hours］
・7:30 am — ［　　］pm on weekdays
［Borrowing Books］
・Come to the desk ［　　］the computer area.
　＊ up to 4 books at a time
・Return books within ［　　］days
［Special Events］
・After school every Tuesday

解答：6:40，behind，10（または ten）
３点＝ a　２点＝ b　１点以下＝ c

［問２］ Write your own idea on Sheet B based on the teacher’s talk.　（７点）

［Sheet B］

I like...Card
I like _____（２行提示）

［問２「知識・技能」のルーブリック］（評価規準略）

２点	適切な語彙や表現を使用した英文で書かれている。
１点	理解に支障がない程度の語彙や表現を使用した英文で書かれている。
０点	誤った語彙や表現を使用しており，理解に支障がある。

２点＝ a　１点＝ b　０点＝ c

［問２「思考・判断・表現」のルーブリック］

評価規準	自分の考えを書いて伝えるために，学校図書室の説明の中から必要な情報を聞き取り，考えを書いて伝えている。
５点	好きな外国名と理由が詳細に書かれている。
３点	好きな外国名と理由の両方が書かれている。
１点	好きな外国名か理由のいずれかが書かれている。
０点	好きな外国名や理由以外が書かれている。／記述なし。

５点＝ a　３点＝ b　１点以下＝ c
（上から２つ目の記述を b 相当と考える；小泉，2022）

［問２の生徒の解答と採点例］

①**解答**：I like America.

採点：「知識・技能」，「思考・判断・表現」の順に１点，１点。記述量が少なく，適切な英文としての評価ができないため。好きな外国名が書かれているだけで，理由がないため。

②**解答**：I like Japan. Because I like sushi and Japan is peace.

採点：２点，１点。英文としてはおおむね問題がないため。外国名が書かれていないが，国が好きな理由は書いてあるため。

③**解答**：I like India because I like curry.

採点：２点，３点。

④**解答**：I like America because it has many popular singer.

採点：２点，５点。英文としてはほぼ問題がないため。外国名・理由があり many popular と詳細な情報を入れているため。

問１は「知識・技能」の問題で，従来のリスニングテスト形式を用いて聞き取った内容を理解しているかを確認します。問２は，聞き取った情報をもとに自分の考えを書く「思考・判断・表現」に焦点を当てた問題です。必要な情報を聞き取り，それを表現できたかどうかに評価の比重を置いた配点にし，大問全体で「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価のバランスを１：１としました（「知識・技能」は問１の３点と問２の２点を合計して５点，「思考・判断・表現」は問２のみで５点）。

定期考査等の場合は，［生徒の解答と採点例］の①のような，ルーブリックをもとに評価しづらい解答（この場合は「知識・技能」の点で）は事前に想定し教員間で共有します。また，判定基準を点数化したルーブリックを使用することで，教員自身も観点別評価のイメージがしやすく，考査全体のバランスの調整が容易になると考えました。

問２の「思考・判断・表現」の観点別評価の分布は，a が17％，b が23％，c が60％（うち無解答25％）でした。好きな外国とその理由という，生徒が中学校で書いた経験があるような平易なテーマでしたが，聞き取った情報をもとに書いて伝えることのハードルの高さを痛感しました。現在，授業内で行っている教科書本文のシャドーイングやディクテーションに，内容に関する質問に答えたり自分の考えを短文で表現したりする活動を加えるなど，アウトプットを含めた活動を増やすことで，改善を図りたいと考えています。

解答後の感想では，放送前後に時間を取ったことへの評価が高く，短時間でもインターバルを設定することが解答環境の改善につながるとわかりました。また，「気をつけて聞くところがわかりやすく，いつもより書くことができた」，「聞いたことを書くことは中学校でもやってこなかったので新鮮で，リスニング問題に答えるより楽しかった」など，前向きに取り組む生徒も見られました。

生徒が取り組みやすい活動やテストになるように，聞くことによるインプットと書くことによるアウトプットを一体的に行うことを習慣化し，身近なテーマの採用や解答環境の整備を意識することで，技能統合型テストへの円滑な移行につながると考えます。

◆参考文献

小泉利恵・印南　洋・深澤　真（2017）.『実例でわかる英語テスト作成ガイド』大修館書店.
小泉利恵（2022）.『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』大修館書店.

information

評価に関する他の特集記事は『英語教育』2022年8月号別冊「テスト・評価のアップデート・マニュアル」でお読みいただけます。

定価1760円（税込）

【『英語教育』別冊記事・再録コーナー】

話すこと［発表］のスピーチの評価
―採点の信頼性向上と指導内容の反映を目指して

菊原健吾（きくはら　けんご）
長野県上田高等学校教諭

採点例

本稿では，論理・表現Ⅱにおける「話すこと［発表］」のスピーチの評価例を紹介する。筆者は勤務校で第２学年を担当している。使用教科書のLesson １～４はスピーチを扱っており，Lesson ４までを終えた後の評価を想定している。

■目標

論理・表現Ⅱの話すこと［発表］の目標を参考に，Lesson ４の目標を以下の通り設定した。

> 日常的な話題（校長先生や生徒会長になったら実施したいこと）について，多様な語句や文を用いて，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝える（スピーチする）ことができる。

■評価規準

［知識・技能］

・意見や主張を述べるために必要となる語彙や表現，音声等を理解している。
・日常的な話題（校長先生や生徒会長になったら実施したいこと）について，意見や主張などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える技能を身に付けている。

［思考・判断・表現］

・聞き手が自分の意見や主張をよく理解できるように，校長先生や生徒会長になったら実施したいことについての意見や主張を明確な理由や根拠とともに詳しく話している。

［主体的に学習に取り組む態度］

「思考・判断・表現」の評価規準の文末を「話そうとしている」にしたもの。

■テストの方法

テストの指示文は以下の通りで，生徒はテスト１週間前にこの指示文を知らされ準備を行う。

［課題］

あなたは生徒会長（the president of the student council）に立候補することになりました。学校には留学生が在籍しており，彼らにも選挙権があります。そこで，留学生に向けて英語でスピーチをすることになりました。

①あなたが生徒会長になったら実施したいこと，②実施したい理由や根拠，③その詳しい説明や具体例の３点を含め，１分30秒でスピーチしてください。キーワード５語を書いたメモを使用できます。

テストは１クラス（40人）あたり１単位時間（55分）の中で実施する。教室内で４人ずつ10グループに分かれ，１人ずつ順にスピーチを行う。１人あたりの持ち時間は，機器の操作やスピーチと質疑応答を含め最大２分30秒。生徒が各自のタブレットでFlipgridというアプリを使用し，スピーチと質疑応答の様子を録画する。教師は，授業後に録画を見ながら採点を行う。

■採点基準（採点例は右のQR参照）

［知識・技能］

評価	採点基準
a	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・語や句，文における強勢や文におけるイントネーションなど英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音している。
b	・多少の誤りはあるが，二度聞けば理解できる程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・二度聞けば理解できる程度の発音で話している。
c	「b」を満たしていない。

［思考・判断・表現］

評価	規準
a	３つの条件を満たした上で，より明確な理由や根拠，それに対するより詳しい説明や具体例を示している。
b	３つの条件を満たして話して伝えている。
c	「b」を満たしていない。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は，「思考・判断・表現」とそろえる。ただし，明らかに３つの条件を満たしてスピーチをしようとしている状況が場合は，「思考・判断・表現」が「c」であっても，「b」とする。

見たかもしれない風景

浜松、風車公園にて。
撮影 河西　遼

学習活動に対する情動的反応：感情的エンゲージメント

廣森 友人（ひろもり ともひと）
明治大学教授

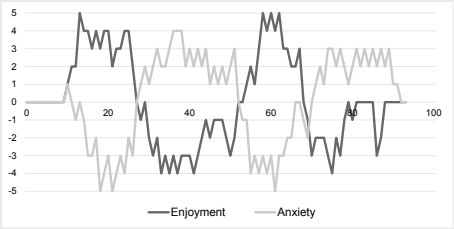
本連載では，近年の動機づけ研究で関心が高まっている「エンゲージメント」を取り上げています。エンゲージメントとは，学習者が夢中になって，目の前の活動や学習に意欲的に取り組んでいる状態のことです。その特徴は，学習者の取り組みを「体」（活動に没頭して取り組む：本欄 Vol.02参照），「技」（メタ認知を働かせ，適切な方略を用いて活動に取り組む：本欄 Vol.03参照），「心」（楽しさや興味を感じながら活動に取り組む）といった観点から包括的に捉える点にあります。今回は上記の「心技体」のうち，「心」に相当する「感情的エンゲージメント」（emotional engagement）に焦点を当てます。

感情的エンゲージメントは，楽しさ，興味，幸福感といったポジティブな感情，またはそれらと対照的な不安，退屈，フラストレーションといったネガティブな感情をどの程度持ちながら活動に取り組んでいるかを示します。これまでの研究によると，感情的エンゲージメントの一例である楽しさ（enjoyment）は学習成果にポジティブな影響を与え，一方，不安（anxiety）はネガティブな影響を与えること，またそれらの影響力は動機づけの程度と同等であることがわかっています（Botes et al., 2022; Teimouri et al., 2019）。つまり，質の高い学習を達成するためには，学習者の感情的エンゲージメントは無視できない要因であると言えます。

POINT 1

感情的エンゲージメントとは，学習活動に対するポジティブ，あるいはネガティブな反応のこと。

感情的エンゲージメントは，対象となる課題や周囲の環境によって，ダイナミックに変化するものです。近年では，このような感情の変動を詳細に捉えるため，多様な手法が開発されています。例えば，“Idiodynamic Method” と呼ばれる方法では，調査参加者の課題への取り組みをビデオで録画し，独自に開発されたソフトウェア（Anion Variable Tester）で読み込みます。その後，参加者は録画した動画を見ながら，特定の感情要因（例：課題に取り組んでいた時の楽しさや不安の程度）について，秒単位で自己評価を行います。その結果は，以下のようなグラフで出力することもできます。



図：感情的エンゲージメントの変化（Anion Variable Tester を用いて著者作成。縦軸は楽しさや不安の強さ，横軸は秒数を表す）

では，英語学習に対するポジティブな感情を促進し，ネガティブな感情を軽減するには，どのような支援が有効でしょうか？　心理学者ミハイ・チクセントミハイは，以下の3つの条件が満たされた時に，人は時間を忘れて活動に没頭する「フロー」（flow）の状態になりやすいと述べています。（1）明確な目標が設定されていること，（2）即時のフィードバックが得られること，（3）スキルと挑戦のバランスが保たれていること。これらの要素を踏まえて，適切な学習環境と教材を提供することで，学習者の感情的エンゲージメントの向上が期待できます。

POINT 2

3条件（目標設定，即時フィードバック，スキル―挑戦のバランス）を満たし，感情的エンゲージメントを高める。

さらに，社会的な学習環境，すなわち，学習者が他の学習者や教師と友好的な関係性を築き，協力 / 協働して学習する機会を提供することは，学習体験をさらに楽しくするための重要な要素になります。次回は，このエンゲージメントの社会的な側面，社会的エンゲージメントに注目します。

参考文献

Botes, E., Dewaele, J.-M., & Greiff, S. (2022). Taking stock: A meta-analysis of the effects of foreign language enjoyment. *Studies in Second Language Learning and Teaching, 12*(2), 205–232.

Teimouri, Y., Goetze, J., & Plonsky, L. (2019). Second language anxiety and achievement: A meta-analysis. *Studies in Second Language Acquisition, 41*(2), 363–387.

Profile

主な著書に『改訂版 英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』『動機づけ研究に基づく英語指導』（大修館書店）。学生のエンゲージメントを高めるために日々奮闘中！

Question Box

英文法の「なぜ」？

朝尾 幸次郎（あさお こうじろう）
英語研究者

Vol.04

教えるのに困る say, says, saidの発音

Q says を /sez/ と発音するのはなぜ？

動詞 say /seɪ/（言う）は教えるのに困ります。3人称単数現在（3単現）says の発音は /seɪz/ ではなく，/sez/ です。過去形 said の発音も /seɪd/ ではなく，/sed/ です。ところが，lay（…を置く），pay（…を払う）の3単現は /leɪz/，/peɪz/ です。過去形・過去分詞は /leɪd/，/peɪd/ です。どうして say は特別な発音をするのでしょう。

A 小説や物語で使う says の影響です。

これは小説や物語で「…とだれそれは言った」という表現に使う says, said の影響によるものと文法学者イェスペルセン（Otto Jespersen）は考えています（*A Modern English Grammar on Historical Principles, Part I, 11.35*）。

話したのがだれかを示すには

小説や物語では「…とだれそれは言った」と示すのに，〈主語＋動詞〉，〈動詞＋主語〉，どちらの語順も使います。次はカール・ハイアセン（Carl Hiaasen）の少年少女向け小説『HOOT』（*HOOT*, 2002）での主人公の少年ロイのことばです。

“I told you,” *Roy said*.
「だから言っただろ」とロイが言った。

作家の中にはこの Roy said のような語順を使う人もいます。現代英語は〈主語＋動詞〉が基本の語順だからです。

しかし，実は〈動詞＋主語〉が伝統的な語順です。今でも小説や新聞はふつうこの語順を使います。次はアガサ・クリスティー（Agatha Christie）の小説『オリエント急行殺人事件』（*Murder on the Orient Express, 1934*）での探偵ポアロのことばです。次の said Poirot は〈動詞＋主語〉という語順です。

“An excellent idea,” *said Poirot*.
「名案ですな」とポアロが言った。

なぜ〈動詞＋主語〉という語順を使うのでしょう。英語では一般に文の最後に現れるものが意味の焦点になります。「…とだれそれは言った」と人のことばを示す場合，大事なのは「言った」ということではなく，言ったのは「だれか」ということです。そのため，主語を文の最後に置くのです。

弱くなった says, said の発音

次はロバート・L・スティーヴンソン（Robert L. Stevenson）の『宝島』（*Treasure Island*, 1883）からの例です。主人公の少年ジムの父が経営する宿屋ベンボウ提督亭。そこに宿泊する水夫をある男がたずねて来ました。男を見た水夫は驚いて叫びます。次の he は驚いた水夫です。

“Black Dog!” said he.
「ブラック・ドッグか！」と水夫は言った。

この said he で，意味として重要なのは said（言った）ではなく，言ったのが彼（＝水夫）だということです。このため，he は強く発音します。対して，said は意味として重要ではないことから軽く発音します。このようなわけで，本来の /seɪd/ は発音が弱まり，/sed/ と発音するようになりました。

3単現 says も同じです。次は宝島探検に向かう仲間がそろった場面です。探検隊を束ねる有力者トリローニにジムが出帆の日をたずねます。次の he はトリローニです。

“Sail!” says he. “We sail tomorrow!”
「出帆か。出帆は明日だ」とトリローニさんが言った。

この says は形は現在形ですが，「言った」という過去の意味です。これは過去のことを，今，目の前でまざまざと見るように表す言い方で「歴史的現在」または「劇的現在」と呼ばれます。日本語の小説で〈「失礼ね」と伸子が言う〉と表すのと同じです。

上の例でも he を強く，says は軽く発音します。そのため，/seɪz/ は /sez/ と発音するようになりました。このようにしてできたのが says /sez/，said /sed/ という発音です。

実は says は /seɪz/ とも発音する

ところで，辞書は says /seɪz/ という発音も示しています。本来の発音 says /seɪz/ は今も残っているのです。英国労働党第21代党首を務めた現国会議員ジェレミー・コービン氏（Jeremy Corbyn, 1949-）は says を /seɪz/ と発音します。

2019年の総選挙でコービン氏は労働党マニフェストをスピーチで発表しました。英国の公共テレビ Channel 4はその録画を YouTube で公開しています。YouTube で Jeremy Corbin launches Labour Party manifesto と検索してみてください。19分1秒の個所で “As it says in our manifesto”（マニフェストに示しているとおり）とコービン氏が言っています。この says は /sez/ ではなく，/saɪz/ に近い /seɪz/ です。

Profile
『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」』『同２』が大好評発売中。

教育ニュース

2023年 3月	埼玉県の市立中学校で，侵入した男子高校生に男性教員が刃物で切り付けられる。／2022年に自殺した小中高校生は過去最多の512人。／22年度国公私立大学入試の一般選抜で，約24％の大学が英語の民間試験を合否に活用。
4月	過労死ラインとされる「月80時間以上」残業をしている中学校教員は36.6％。
5月	大阪府は高校授業料の「完全無償化」案を発表。／英検３級以上相当の英語力をもつ中学３年生49％，準２級以上相当の高校３年生48％で，政府目標の50％にわずかに届かず。／文部科学省は教員採用試験の日程前倒しや複数回実施の案を各教育委員会に提示，人材確保対策を促す。政府が第４期教育振興基本計画を策定，中高生の英語力の目標引き上げ。
7月	文部科学省は「AIの生成物はコンクールに出品不可」など，生成AIの活用に関する指針を公表。▶PICK OUT①
8月	文科省が全国学力・学習状況調査の結果を公表，中学英語のスピーキング正答率は12％で，「話す」力に課題。▶PICK OUT②

PICK OUT

① 文科省が，学校で「チャットGPT」など生成AIを活用する際の指針をまとめ，公表した。コンクールに生成AIが作った作品をそのまま出品することを不適切とする一方，英会話での活用は考えられるなど，具体的な活用事例を示した。まず，生成AIの利用について，「使いこなすための力を意識的に育てる姿勢は重要である」と指摘。一方，個人情報の流出など様々な懸念があることから，「子供の発達段階を十分に考慮する必要がある」とした。そこで，当面は「限定的な利用から始めることが適切」とし，中でも小学生の利用については慎重な対応を求めた。そのうえで，生成AIの適切な活用例と不適切な活用例を提示。不適切な場合として，▽生成AIの生成物をコンクールの作品やリポートの成果物として提出する▽詩や俳句の創作，音楽や美術の表現・鑑賞で安易に使わせる▽定期テストや小テストで使わせる―ことなどを例示。適切な活用例では，▽英会話の相手として使う▽グループ学習の過程で足りない視点を見つけるために使う▽AIの生成物の中にある誤りを考えさせその限界に気づかせる―ことなどを挙げた。指針はあくまで暫定的なものであり，「一律に禁止や義務づけを行う性質のものではない」とした。文科省は今後，パイロット校を指定して一部の学校で先行研究を行いながら活用の在り方の検証を続け，指針の見直しを常に図っていくとしている。

② 文科省は2023年度の全国学力・学習状況調査の結果を公表した。中学校の英語では，スピーキングの平均正答率が12％にとどまるなど，英語で自分の考えを伝える力に課題があることが浮き彫りとなった。調査は，全国の小学６年生と中学３年生計約211万人が対象。国語，算数・数学に加え，４年ぶりに２回目となる英語が実施された。平均正答率は，小学校の国語が67.4％，算数が62.7％。中学校の国語が70.1％，数学51.4％だった。中学の英語は「聞く・読む・書く」の正答率が46.1％で，前回調査（19年度調査）から約10ポイント減少。この中で，「書く」は24.1％と低迷した。一方，「話す」の平均正答率は12.4％で，前回調査（30.8％）を大きく下回った。５つある設問の中では，環境問題に関するプレゼンテーションを聞いて自分の考えとその理由を英語で話す設問で，正答率が4.2％にとどまり，無回答率も18.8％に上った。文科省は，「問題設定に難しさがあった」としながらも，「話し手の意見を踏まえ自分の考えやその理由を伝えることに課題」があると分析。同時に行ったアンケート調査でも，聞いた内容は理解できたが「話す内容が思い浮かばなかった」（35.8％），話す内容は浮かんだが「表現する英語が浮かばなかった」（41.1％）という意見が多く上がった。一方で，普段の授業で，英語で発表活動をしている生徒ほど正答率が高く，無解答率が低いという分析結果も見られた。文科省は，自分の考えを整理し，それを伝えるために必要な英語の表現を身に着けることが求められるとして，「スピーチやプレゼンなどまとまった内容を英語で発表する言語活動を継続的，計画的に取り入れることが重要」とした。調査結果について，永岡桂子文科相は記者会見で「『話すこと』『書くこと』の課題が明らかになった」として，指導環境の整備や指導法の改善をより強化していく考えを示した。

あずきさんの作品がもっと見られる Instagram はコチラ！

大修館

BOOKSHELF

『英語授業デザインマニュアル』

山岡大基／田頭憲二 編著

自著紹介

A5判／264pp.
定価2,640円（税込）
ISBN：978-4469246636
2023年

教材研究（plan）→授業準備（prepare）→授業（do）

教科書を手に取った瞬間から，英語授業デザインが始まります。

本書は，英語教師の皆さんや教師志望の学生向けの英語授業づくりマニュアルの提供を目的としています。確かな学びへ導く授業づくりについて，教材研究から指導案作成，教具の準備，児童・生徒対応，そして，評価という，実際の日々の実務の流れに沿って詳細に解説をしてみました。特に，授業づくりをどこから始めればよいか迷うことの多い方にお読みいただければうれしいです。もちろん，ベテランの先生方にとっても，日々の実践を振り返る機会としてご利用いただけると思います。

是非，始めから最後まで順にお読みいただくことで，私たちと一緒に授業デザインを考える経験をしてみませんか。

（東京家政大学准教授　**田頭憲二**）

『改訂版 英語学習のメカニズム』

廣森友人 著

自著紹介

A5判／224pp.
定価1,760円（税込）
ISBN：978-4469246650
2023年

学習者を深く知るためのヒントが満載！

すべての教師は，より質の高い授業を行い，生徒の力を引き出したいと願っています。そのためには英語力，授業力，コミュニケーション力，どれも大切ですが，これらを最大限に活かすためには，生徒を深く理解することが重要です。生徒は異なる個性や適性を持ち，それらが学習スタイルや学習方法に影響を与えます。学習者の多様性に対する理解が深まれば，教師はより効果的な授業計画を立て，日々の指導を行うことができます。

『改訂版 英語学習のメカニズム－第二言語習得研究に基づく効果的な勉強法』は，初版と同様，学習者の個人差に焦点を当て，学習のプロセスと成果がどのように関連するかを体系的に解説しています。改訂版では，最新の統計データや文献情報，初版以降の研究の進展を反映するとともに，授業や自学用のワークシートを提供するコンパニオン・ウェブサイトも新たに用意しています。改訂版が先生方の教育実践をより一層サポートしてくれることを期待しています。

（明治大学教授　**廣森友人**）

『英語教師の授業デザイン力を高める３つの力―読解力・要約力・編集力』

中嶋洋一 編著

自著紹介

A5判／240pp.
定価2,420円（税込）
ISBN：978-4469246681
2023年

「変化に気づけることが感性」。これは，料理研究家の土井善晴氏（NHK『今日の料理』）の言葉です。授業にも当てはまります。それができるようになるには，自分の観察眼を磨き，ハッと気づく心のセンサーの感度を高めなければなりません。その土台となるのが教師の「読解力」。それは，「本質を読み解く力」「相手の気持ちを理解する力」「場の空気を読む力」といった広義のものであることを理解しておくことが大切です。もし，教師の「読解力」が低ければ，生徒の興味，関心を活かせないワンパターンの授業，教師だけがやりたい授業になってしまいます。逆に，それが高ければ，学習指導要領（羅針盤）を正しく理解し，教科書に出てくる言語活動がそれぞれ，学習指導要領のどこにつながっているのかを読み解くことができます。本書では，そこから発展し，不要なことを引き算する「要約力」，生徒が夢中になる授業を創る「編集力」も含め，学習者の心理を活かした「ワクワク授業」のプロセスをご紹介しています。

（英語“ワクワク授業”研究所 代表　**中嶋洋一**）

先生方の負担が大きい探究学習。大修館書店のオンライン型
探究教材“アクチュアル”は、その課題解決を支援します。

大修館 探究オンライン
ACTUAL
アクチュアル

探究学習の課題を解決する、“アクチュアル”4つの教材！

探究の手法やプロセスに慣れる40本の教材をご用意

ミニ探究・ミドル探究

短いコマ数で完結する教材を約40本収録。教材を選んで使うことで、
「総合的な探究（学習）の時間」の授業計画をスムーズに作成できます。

教材例…探究学習に必要な資質・能力を学べる教材が揃っています。

1コマからOK
ミニ探究
- ●自分の好きなモノ紹介
- ●学校の中の危険な場所を探す
▶ 主体性・協働性を高めます。

- ●AとBどちらがいいか？
- ●アンケートを作ってみよう
▶ 探究学習の手法が身につきます。

5〜10コマで完結
ミドル探究
- ●地域のために何ができるか？
- ●SDGsを自分ごと化する
▶ 探究学習のプロセスを学べます。

探究の手法を詳しく学び、自走的な探究へ導く

調べ学習編・課題研究編

授業計画は決まっているが、生徒ごとに課題設定が異なる活動を
指導するのは負担が大きい…そんな学校を支援する探究学習の副読本を
ご用意しました。

項目例…探究学習の各ステップでの取り組み方を丁寧に解説しています。

探究のイロハから解説
調べ学習編
- 【課題の設定】…● 問いのタネを探す
- 【情報の収集】…● 先行研究を用いて説明しよう
- 【整理・分析】…● 情報整理の方法
- 【まとめ・表現】…● スライド型ポスターを作ろう

高度な探究を解説
課題研究編
- 【課題の設定】…● 問いの立て方と仮説について
- 【情報の収集】…● シミュレーション
- 【整理・分析】…● 表計算ソフトの使い方
- 【まとめ・表現】…● レポート・論文の作成

最新情報は特設サイトでご確認ください。
デモアカウントのお申込みも受け付けています。
“アクチュアル”特設サイト▶ https://lp.actual.quest/

販売総代理店 株式会社紀伊國屋書店 学校教育ICT推進部
☎：03-5719-2501 ✉：school@kinokuniya.co.jp

開発・運営 株式会社大修館書店 デジタル事業開発部
☎：03-3868-2603 ✉：inquiry_dr@taishukan.co.jp

大修館英語通信 What's New!
2023 年 10 月 15 日発行　第 6 号

編集人：『大修館英語通信 What's New!』編集部
発行人：鈴木一行
発行所：株式会社　大修館書店
〒 113-8541　東京都文京区湯島 2-1-1
電話(03)3868-2292(編集部) ／ (03)3868-2651(販売部)
［出版情報 URL］https://www.taishukan.co.jp
［振替］00190-7-40504

表紙・本文デザイン：ＣＣＫ
表紙イラスト：オザワミカ
印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

Ⓡ本誌のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化をすることは，たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 (株)大修館書店